

# 高原山ものがたり①

ふるさとの山に向ひて  
言ふことなし  
ふるさとの山は  
ありがたきかな

これは、ご存知の通り  
啄木の詠んだ歌です。そ  
れでは、この「山」を  
「高原山」と置き換えて  
読んでみましょう。高原  
山は、矢板市にあり、高  
原山は、矢板市にあり、  
民にとつてまさに心の  
ふるさと、心のよりどころ  
なのです。

しかし、この高原山も  
果たしてどのくらい理解  
されているでしょうか。  
例えは  
①高原山はいつごろ誕生  
したのか  
②活火山であること  
③黒曜石の産出地である  
こと  
④山岳仏教のメッカであつ  
たこと  
⑤明治の文豪である与  
謝野晶子夫妻が絶賛し歌  
を詠んでいること  
⑥小学校が建てられてい  
たこと

などなど、魅力たっぷりの  
山なのです。また、呼  
び名も「たかはらさん」  
派と「たかはらやま」派  
の二つに分かれているよ  
うです。  
そんな高原山を、今回  
から六回にわたり紹介し  
ていきたいと思います。

まず第一回目は、高原  
山の概要を地学的に紹介  
していきます。

■優美な裾野を持つこの  
山の形は、成層火山と呼  
ばれています。あの富士  
山がその代表です。  
■高原山という山頂はあ  
りません。釈迦ヶ岳や鶏  
頂山、それに剣ヶ峰  
や前黒山など複数の  
山を総称して呼ばれ  
ています。

■最高峰は、釈迦ヶ  
岳（一七九五メート  
ル）で、山頂には一  
等三角点が置かれて  
います。ただし、こ  
こは矢板市ではなく、  
日光市・那須塩原市  
それに塩谷町にまた  
がっています。

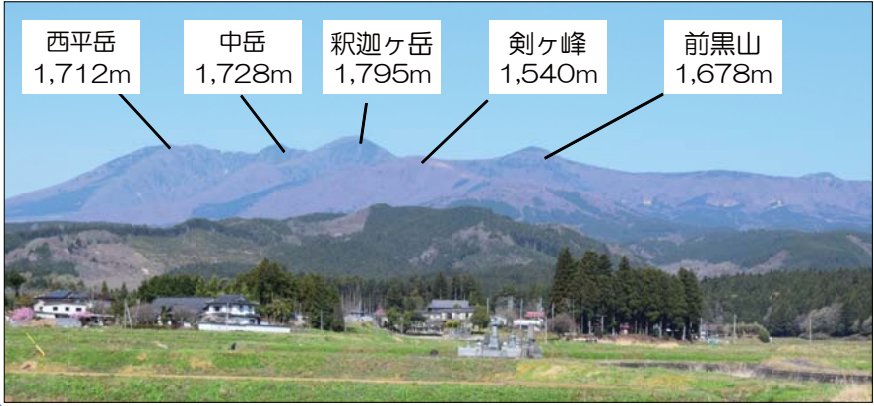
■高原山の範囲は、  
東西・南北約十六キ  
ロメートルに及んで  
います。

■今から約五千万年  
前に始まった大規模  
な火山活動によって、  
まず前黒山や明神岳  
が形成され、次いで  
噴火活動は南へ移り、

釈迦ヶ岳や鶏頂山が形成  
されました。現在のよう  
な山容になったのは、十  
万年前と伝えられていま  
す。

■新湯温泉では、今でも  
盛んに噴気活動を続けて  
いることから、活火山に  
追加されました。

積  
釈迦ヶ岳や鶏頂山が形成  
されました。現在のよう  
な山容になったのは、十  
万年前と伝えられていま  
す。



**記者の矢板おすすめスポット!**  
安沢から見る高原山の景色  
安沢の社から見る 高原山を表現  
高原山の眺望は素晴 力豊かに書き  
らしく、十景にも選 綴ったことだ  
ばれています。そのいくつ と思う。  
かの山塊をつくる中では、 高原山は、  
五番目に高い剣ヶ峰である そんな魅力あ  
が、そのパラマは他の山 る山であり、  
並みにも負けじと素晴らし 大気中の現象  
い光景をつくっている。 により、緑色  
展望に適している六〇八 からも黒褐色に  
月が一番美しい。そして、 も変化する風  
季節に見る高原山の峰々は、 景も私は好き  
私たちの心に清涼剤となっ です。  
てパワーを刻みつけてくれ (S・M)



**長峰公園から眺める高原山**  
春は桜やツツジの花を中心に季節  
折々に市民を楽しませてくれる長峰  
公園。南側駐車場から階段を上った  
小高い丘の頂上にシンボルタ  
ワーが立っています。その上  
からは矢板市の大部分が見渡  
せ、多くの市民がここからの  
景色を楽しんでいます。  
今回私がおすすめするスポッ  
トは、この頂上から見る高原  
山です。北西方面に目を向け  
ると、高原山の雄大な峰々が  
見えます。朝は東から上った  
太陽に照らされ、ピンク色に  
染められる高原山が、そして、  
夕方には西の日光の山々に沈  
みゆく太陽で朱色に染められ  
た高原山が私に元気を与えて  
くれます。

くれているように感じます。  
もちろん、これは毎日でなく、空  
気が澄んだ天気の良い朝と夕方にだ  
け見ることのできる光景です。  
花越しに眺める高原山もよいです  
が、特に山  
々の頂に雪が  
冠っている冬  
の時期、朝の  
清々しい空気  
の中でだんだ  
んとピンク色  
や朱色に染ま  
って美しく化  
粧する高原山  
が気に入って  
ます。(T・M)



(編集後記) 6月を迎え、野山も水田も緑が濃くなり、  
ピカピカの一年生もランドセルが背中に馴染んできた  
ことでしょう。年6回発行のやいた応援かわら版  
は、市民に一番身近な矢板のあれこれを記事にしま  
す。ぜひ紙面に載せてほしい個人や団体の話題やか  
わら版への感想など、お待ちしております。(M・K)